

インターバンクの声（2014 年 11 月 12 日）

先月末に 110 円を突破したドル円は、それから 2 週間も経っていないにも関わらず 116 円まで上昇してきた。昨日の一般紙朝刊が報じた「消費税延期決断、年内解散総選挙」説が時間の経過とともに次第に現実味を帯び、欧州勢が参入し始める時間帯に入っただけで 116 円に乗せだった。消費税引き上げ延期や解散総選挙がなぜ株価上昇や円安になるのか理解しにくい部分もあるが、総選挙を打っても自民党圧勝の構造は崩れず、改めて強い信任を受けての巨額補正による景気回復を図り、株価の更なる上昇ともう一段の円安を目指すのがメインシナリオらしい。来週月曜日に発表される第 3 四半期 GDP の数字が弱く、来年前半に向けて 2% 物価安定目標の達成が困難な事態になることに先手を打ったとの見方もあり、安倍首相の当初の計画達成が先延ばしされることになることへの批判やリスク拡大を警戒する反応も想定され、市場の円売りの流れに素直に乗っていいのか悩ましく感じる部分もある。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。